

## 魚礁に 関 する 研 究—IV

### 日立沖人工魚礁に現われる魚類の漁期の考察

刈部信二・河崎正・深川義規

#### 目的と方法

日立沖人工魚礁に棲息する魚類の行動の概略は前年度報告書で述べたが、設置魚礁に付着した魚が、そこに周年付着しているとは限らない。

人工魚礁に付着する魚類の漁期を適格に把握することが、人工魚礁を有効に利用し、またその魚族生態に合致し漁具漁法を見出すことにつながる。

ここでは、当該魚礁で行なった漁獲調査から、そこに現われる魚類の漁期を考察して報告する。なお漁具は刺網を用いた。

#### 結果と考察

昭和37年9月～42年12月の5年4カ月に指導船「ときわ」(26.25トン)による日立沖人工魚礁の漁獲調査は延24回であった。当該調査結果を総合すると表1のようであり、羅網回数24回で、魚種ごとの出現率をみると(表2)、ソイ79%、カレイ62%、タイ58%(表2では62%)、マアジ50%、これ以外は50%に満たない。

このうち上位3者は礁付きの魚であり、日立人工魚礁は礁付き魚については効果を発揮しているといえ、特にソイ、タイ類には絶好の棲息場を提供したことがうかがえる。

遊性魚族ではイナダ33%が目立つていので、詳細は今後の調査にまつ以外にない。

漁期の形成について：漁獲の事実と推測からみて(表2)、9～1月によく集魚しており特に秋は礁付きの魚族(俗に付きの魚という)および遊性魚族(俗に寄りの魚という)が共に集っている。

しかし、この漁獲調査は1～5月に少なく、ソイ、メシなど付きの魚がはたして人工魚礁に定着しているかを明確にはできなかった。

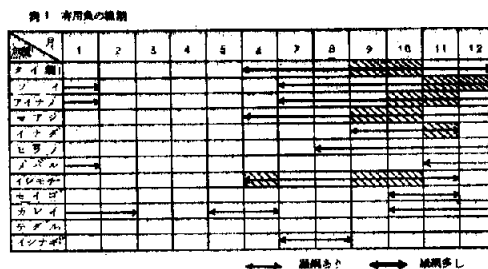


表 2 日立沖魚礁における有要魚種の出現

魚種	27日												28日												29日												30日																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12										
ソイ	■											■												■																							■											
カレイ																																																										
タイ																																																										
イナダ																																																										
スズキ																																																										
ヒラメ																																																										
サメ																																																										
その他																																																										

要 約

1. 日立沖人工魚礁の漁期は9月～1月である。
2. 魚礁の主な礁付き魚はソイ、カレイ、タイ類であり回遊性魚族ではイナダである。
3. スズキ、ヒラメなど高級魚は漁獲をみていないが、ごく少なかった。